

# たしはら



春  
2003

## 大学構内吉備塚古墳の学術調査



奈良市の東部、若草山から古市にかけて点々と小規模の古墳があります。本学構内にある吉備塚古墳もそのひとつであり、吉備真備の墓であるとい伝えられています。昨年十一月二十五日から二ヶ月をかけて学術調査を実施することができました。

この古墳の墳頂付近から、中心部が欠けた西文帯環状乳神獸鏡が一九八六年に表採されています。これまで地形調査はされていませんが、発掘調査は今回がはじめてです。調査は総合教育課程文化財コースの教官が担当し、同コースの学生が作業にあたりました。遺物は、旧連隊時代の瓦礫や江戸時代の灯明皿、古銭の他、埴輪片、鏡片、鉄鏃、掛甲、鉄刀、用途不明の鉄製品、赤色顔料など、盗掘を免れた貴重なものです。分析の結果、赤色顔料は水銀朱であり、鉄製品には馬具に使用された兵庫鎖が含まれていることが分かりました。

調査は一月二十四日に終了しましたが、今回の調査によって、吉備塚古墳は真備の時代より二〇〇年以上も古い古墳であることがわかりました。古墳の範囲確認や墓壙の解明には再調査を期すこととなりますが、さて、どのような人物が眠る墳墓であるのか、今後の調査が楽しみです。

●「吉備塚古墳発掘速報」のホームページ  
<http://kobunka.nara-edu.ac.jp/kibi.htm>

吉備塚古墳調査委員会委員  
理科教育講座・教授 長友 恒人

表紙題字 名誉教授 池田桂鳳